

8 中学校 音楽科 問題用紙

(6枚のうち1)

受験番号		氏 名	
------	--	-----	--

(答えは、全て解答用紙に記入すること。)

1 あとの1～6に答えなさい。

- 1 次の(1)～(3)の楽譜は、ある楽曲の一部を示したものです。それぞれの楽譜が示す楽曲名とその作曲者名を書きなさい。

(1)

(2)

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

(3)

- 2 次の表は、発想を示す用語についてまとめたものです。表中の(1)～(6)に当てはまる語句をそれぞれ書きなさい。

用語	読み方	意味
appassionato	アパッショナート	(1)
(2)	ブリッランテ	はなやかに
cantabile	カンタービレ	(3)
con brio	コン・ブリオ	生き生きと
espressivo	エスプレッシーヴォ	(4)
maestoso	マエストーゾ	(5)
scherzando	スケルツァンド	(6)

- 3 次の(1)～(6)の形式の特徴を、それぞれ書きなさい。

- (1) 有節歌曲
- (2) 通作歌曲
- (3) 連作歌曲
- (4) 一部形式
- (5) 二部形式
- (6) 三部形式

(6枚のうち2)

受験番号		氏 名	
------	--	-----	--

(答えは、全て解答用紙に記入すること。)

- 4 次の(1)～(3)の語句の説明として適切なものを、下の(ア)～(カ)のうちからそれぞれ選び、その記号を書きなさい。

(1) ミニマル・ミュージック

(2) トーン・クラスター

(3) 表現主義

- (ア) 20世紀初頭、絵画や文学を中心に起こった、独自の感情世界を主観的に表出することを主眼とした芸術運動の概念
 (イ) 19世紀末より20世紀にかけフランスを中心に、主に叙情詩の上に現れた芸術思潮
 (ウ) 簡単で短い音型を繰り返して構成される音楽
 (エ) 作曲や演奏に偶然的な要素を取り入れた音楽
 (オ) 作品ごとにつくられる12音からなる音列を基本として、無調の作品を構成する作曲法
 (カ) 2度以下の音程でぶつかり合う音を多数同時に鳴らす手法

- 5 次の(1)～(3)に答えなさい。

(1) ピリオド楽器とは何ですか。書きなさい。

(2) 次の①～④はどのようなものですか。それぞれ書きなさい。

- ① フラウト・トラヴェルソ
 ② リュート
 ③ ヴィオローネ
 ④ チェンバロ

(3) 次の文章は、通奏低音について説明したものです。文中の(①)～(③)に当てはまる言葉を、下の(ア)～(カ)のうちからそれぞれ選び、その記号を書きなさい。

(①)のヨーロッパで広く行われたもので、(②)奏者、またはハープなどの撥弦楽器奏者が、与えられた低音の上に、(③)伴奏声部を完成させる方法及びその低音部を指す。

- (ア) 17～18世紀
 (イ) 19～20世紀
 (ウ) 金管楽器
 (エ) 鍵盤楽器
 (オ) 持続音を重ねて
 (カ) 即興で和音を補いながら

8 中学校 音楽科 問題用紙

(6枚のうち3)

受験番号		氏 名	
------	--	-----	--

(答えは、全て解答用紙に記入すること。)

6 あとの楽譜を基に、次の【条件】に従って旋律をつくり、解答欄の五線譜に書きなさい。

【条件】

- ① フルートで演奏するための副次的な旋律とすること。
- ② 旋律に用いる音は、一点ハ音から三点ト音までとすること。
- ③ プラルトリラーを用いること。
- ④ モルデントを用いること。

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

8 中学校 音楽科 問題用紙

(6枚のうち4)

受験番号		氏 名	
------	--	-----	--

(答えは、全て解答用紙に記入すること。)

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

(6枚のうち5)

受験番号		氏 名	
------	--	-----	--

(答えは、全て解答用紙に記入すること。)

- 2 平成 29 年 3 月告示の中学校学習指導要領 音楽 [第 1 学年] 内容 A 表現 (1) には、次のように示されています。

- (1) 歌唱の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、歌唱表現を創意工夫すること。
- イ 次の(ア)及び(イ)について理解すること。
- (ア) 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わり
- (イ) 声の音色や響き及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わり
- ウ 次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること。
- (ア) 創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能
- (イ) 創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能

教材として「ソーラン節」を取り扱い、ア、イの(イ)、ウの(ア)を組み合わせた題材を設定することとします。また、生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素として、旋律を選択することとします。次に示す生徒の状況を踏まえ、下の 1・2 に答えなさい。

生徒の状況	<対象学年> 第 1 学年
	生徒はこれまでに、「南部牛追歌」、「伊勢音頭」、「谷茶前」、「酒づくり歌」を鑑賞する活動を行った。

- 1 この題材における「思考・判断・表現」の観点に関する評価規準を書きなさい。
- 2 題材名を挙げて、3 単位時間で扱う学習活動を書きなさい。

- 3 第 3 学年の創作の授業において、ハ長調の音階を使ってまとまりのある旋律をつくる活動を取り入れました。次の 1・2 に答えなさい。

- 1 生徒は、主体的・協働的に創作の学習活動に取り組もうとしています。しかし、まとまりのある創作表現を創意工夫することとは十分ではありません。生徒がまとまりのある創作表現を創意工夫するためには、どのような学習の過程が大切ですか。書きなさい。
- 2 この活動を通して、創意工夫を生かした表現で旋律をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付けることを指導します。例えば「2 小節の長さでつくったハ長調の動機を、反復、変化させたり、重ねたりするなどして、2 本のアルトリコーダーのためのまとまりのある音楽をつくること」という課題や条件に沿って旋律をつくる際の技能とは、どのようなものだと考えられますか。3 つ書きなさい。

(6枚のうち6)

受験番号		氏 名	
------	--	-----	--

(答えは、全て解答用紙に記入すること。)

- 4 次の文章は、平成 29 年 3 月告示の中学校学習指導要領 音楽 指導計画の作成と内容の取扱い 2 (3) の一部を示したものです。このことに関して、下の 1・2 に答えなさい。

イ 生徒や学校、地域の実態などを考慮した上で、指導上の必要に応じて和楽器、弦楽器、管楽器、打楽器、鍵盤楽器、(①) 及び世界の諸民族の楽器を適宜用いること。なお、3 学年間を通じて (②) 種類以上の和楽器を取り扱い、その表現活動を通して、生徒が我が国や郷土の伝統音楽のよさを味わい、愛着をもつことができるよう工夫すること。

- 1 文章中の空欄 (①) に当てはまる語、空欄 (②) に当てはまる数字はそれぞれ何ですか。書きなさい。
- 2 和楽器のうち、吹き物を 3 つ書きなさい。

8

中学校 音楽科 解答用紙

(5枚のうち1)

受験番号		氏 名	
------	--	-----	--

問題番号		解答欄		
1	1	(1)	楽曲名	
			作曲者名	
		(2)	楽曲名	
			作曲者名	
		(3)	楽曲名	
			作曲者名	
	2	(1)		
		(2)		
		(3)		
		(4)		
		(5)		
		(6)		
	3	(1)		
		(2)		
		(3)		
		(4)		
		(5)		
		(6)		

8

中学校 音楽科 解答用紙

(5枚のうち2)

受験番号		氏 名	
------	--	-----	--

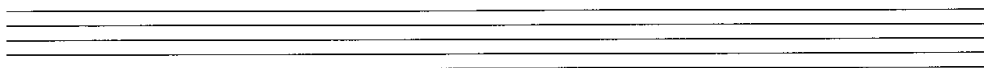
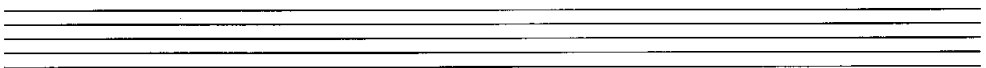
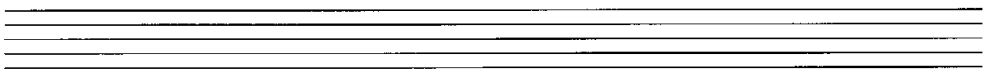
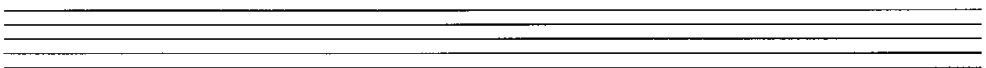
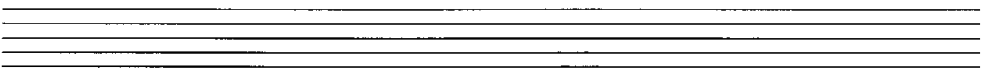
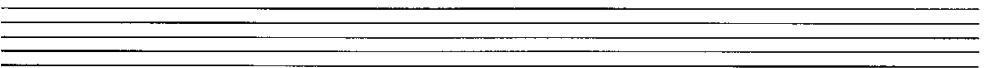
問題番号		解答欄	
1	4	(1)	
		(2)	
		(3)	
	5	(1)	
		(2)	①
			②
			③
			④
		(3)	①
			②
			③

8

中学校 音楽科 解答用紙

(5枚のうち3)

受験番号		氏 名	
------	--	-----	--

問題番号		解答欄
1	6	
		
		
		
		
		
		
		

8

中学校 音楽科 解答用紙

(5枚のうち4)

受験番号

氏 名

問題番号

解答欄

1

題材名 (

)

時間

学習活動

2

2

※ 必要に応じて線を引いてもよい。

8

中学校 音楽科 解答用紙

(5枚のうち5)

受験番号		氏 名	
------	--	-----	--

問題番号		解答欄	
3	1		
	2		
4	1	①	
		②	
	2		